

令和2年度 学校教育自己診断の結果と分析

【総論】

- 学校教育自己診断の提出率は、生徒は 98.1%、保護者は 78.4%、教職員は 98%となっており、特に保護者の学校への関心の高さが伺える。
- 生徒においては、51 項目のうち 46 項目で肯定感が増加している。3項目で 10 ポイント以上増加しており、生徒が学校生活を肯定的に捉えて過ごしていた様子が伺える。「全般」の項目でも「入学してよかった、学校で鍛えられている、自分のためになっている、学校（先生）を信頼している」が大幅に向上しており、日々の教員の生徒指導、学習指導への取り組みが生徒の学校への信頼に繋がっていると考えられる。

【学習指導】

- 生徒においては、8項目中7項目が増加し、平均も 3.4%増加した。特に、「先生に質問しやすい」が 66.1%と昨年度より 6.0%増加しており、生徒一人ひとりに対する丁寧な指導の様子が伺える。「授業がわかりやすい、楽しい」「主体的な取り組み」「授業規律」「学習評価」についても肯定感が大きく向上しており、生徒たちの学習環境が大きく向上していることがわかる。
- 保護者においては、ほぼ昨年同様高い評価を得ている。「懇談や通信」への肯定感が上昇しており、保護者メールや懇談などを通じて丁寧に生徒の学習状況や学校生活の様子を伝えることが評価されている。
- 教職員においては、「参加体験型の学習など指導方法の工夫・改善」「問題解決的な学習指導」「評価の在り方について話し合う機会がある」がそれぞれ 10 ポイント程度向上している。

【生徒指導】

- 教職員においては、10 項目中 9 項目で肯定感が増加し、ほぼ全ての項目が 90~100%程度の高い評価となっている。「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立」はほぼ 100%であり、ほぼ全教職員が学校の変化を感じていることがわかる。
- 生徒においては 8 項目中 7 項目で肯定感が増加し、平均も 3.8%増加した。特に「基本的習慣の確立」、「指導に対する納得」の項目が大きく増加しており、先生方の粘り強い日々の取り組みの積み重ねが反映されている。

【自主活動】

- 生徒と教職員は様々な工夫を凝らしながら学校行事に取り組み、生徒たちの「自分たちの意見が反映されている」「学校行事は工夫されている」の評価においては 10~15 ポイントも上昇した。生徒自身が自主的に活動し、成果を出すことができたという自己肯定感の表れであると考えられる。

【進路指導】

- 生徒の肯定感全ての項目 5%以上増加している。今後も、保護者と連携して丁寧な進路指導を行っていく。
- 教職員の肯定感も大幅に向上し、ほぼ全ての項目で 5 ポイント以上増加、「熱心な指導」「体系的なキャリア教育」においては 12~16 ポイント程度の増加が見られる。これは、教職員の熱心な指導が就職内定率の増加や進路未決定率の減少などにつながっていることに要因がある。